

3.6全国集会在成功させよう



82,2,12

No. 967

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆) 四三三(三) 二七二〇七

第三回支部代表会議で確認

第三回支部代表者会議は二月十日、動力車会館で開かれ、執行部から提案された「国鉄、三里塚をめぐる情勢と当面する取組み」について討議し、満場一致で確認しました。

第二臨調(民営化・分割)は国鉄労働運動解体攻撃だ

国鉄をめぐる情勢として、行革・第二臨調という国鉄労働運動解体の攻撃がかけられています。「国鉄民営・分割」を骨子とする第二臨調の答申が、次のような内容で6月に発表されるようになっています。

- ・ 国鉄を、①旧本社、②本州新幹線会社、③本州幹線会社、④北海道会社、⑤本州会社、⑥四国会社、⑦九州会社の七会社に分割する。
- ・ それぞれの会社は政府出資の特殊会社にし、順次民営化する。
- ・ 完全分割までの移行措置として一体的な特殊会社として地域機能別に事業別制とする。
- ・ 料金・貨物扱いの存廃は各会社の自主性。
- ・ 累積債務は旧本社に集中する。

そして、当面の措置として、国鉄資産の売却、国鉄職員の採用ストップ、給与の抑制、ヤミ協定の廃止、無料乗車証の廃止、新幹線整備五線計画の凍結、地方交通線の整理促進、投資の抑制、鉄道病院の切り離し、車両工場の切り離しを主張しています。これに対し、国鉄当局・高木総裁は「臨調は国鉄を理解していない」などと、第二臨調を批判するかのようなポーズをとっていますが、本質は「国鉄再建」即ち「赤字解消」を先行させるものでなく、攻撃の焦点を国鉄労働運動解体にしているのです。それは国鉄労働運動の解体なくして軍事大国化・改憲攻撃は貫徹できないと決意した支配の側の死活をかけた攻撃です。

勤労「本部」の「働こう運動」を粉碎しよう

一方、勤労「本部」は、「働こう運動」なる新たな合理化全面協力宣言を打ち出し、戦後労働運動最大の裏切り者として登場しています。

勤労「本部」全国戦長会議で配布された、「国鉄問題に関する勤労の考え方」のなか身は、「民衆の敵」国鉄の重包围網を打破するために、国鉄の社会的必要論を前面化させ、特殊な戦術をもって

闘う」と、「働き度を高める」運動、「省エネ型交通体系の確立」なる提言を行ないました。この反動性は、国鉄の「社会的必要論」なる企業防衛主義即ち愛国主義であり、「働こう運動」なるマル生運動の尖兵として「合理化絶対反対」に反対する、ストライキ・職場闘争圧殺宣言、勤労千葉破壊宣言であります。

勝利のカギは「反合・三里塚を闘う労働運動」の前進にある

三里塚は風雲急を告げています。日帝・運輸省公団は総力をあげた反対同盟破壊攻撃をかけており、この攻撃を労働連帯の総力をあげて勝ちぬくことに、三里塚二期阻止の勝利がかかっています。

軍事大国化・改憲、「八三年政治決戦」として規定した政府支配者は、反体制運動の柱としてある国鉄労働運動と並ぶ、三里塚闘争陣形を八二年三月で根絶やしにせんと攻撃をかけてきています。情勢は確実に「国鉄」「三里塚」をめぐる決戦的状况へと突入しています。

一切の勝利のカギは、勤労千葉の「反合・三里塚を闘う労働運動」の前進にかかっており、2・7「労組懇集会」への53団体、320名の結集という圧倒的成功を突破口に、3・6全国労働者集會に三千の参加をかちとり、3・28三里塚現地に労働者本隊の総決起をかちとるうではありませんか。

2・3月全組合員の総決起をかちとろう

支部代表者会議は、当面する取組みとして次の通り、「2・3月全組合員総決起行動」に全力をあげることを確認しました。

当面する取組み

1. 3・6全国労働者集會への組織化。
2. 政府・運輸省公団弾劾・反対同盟激励オルグを行なう。
3. 各支部は、2月中に職場集會を開催する。
4. 新採獲得行動に全力をあげて取組む。
5. 勤労「本部」革マル反動分子による3月「全国オルグ」粉碎闘争の体制を確立する。
6. 一兆円減税、賃上げ完全獲得2・28メーデーに取組む。